

小布施町における 外部人材との共創まちづくり

2025/3/4

シヨクバイ株式会社 代表取締役
林志洋

自己紹介: 林 志洋 - ショクバイ株式会社 代表取締役

【学生時代】

イノベーション政策の研究
@東京 / アジア3カ国

- 兵庫県神戸市出身
⇒ 東京大学公共政策大学院
北京大学国際関係学院
を修了



- 専門は**公共政策と国際関係**
中国の経済発展と
イノベーション政策の研究

- 興味: **面白いアイデアが社会に広がるためには**
⇒この頃から「**社会実装**」が一貫したテーマ



Bizjapan

【社会人~】

戦略コンサル・スタートアップ
@東京

- 新卒で**戦略コンサルティング**業界へ。

KEARNEY

- 「アイデアの種」が育つ過程に触れたい!と、**ベンチャー支援 / 投資**へ。
自分でも会社を設立。



SHOCKBY

- 社会実装に繋がる経験を積むべく、プロボノ的に小布施町に関わるように。

長野・小布施町に移住

- **コロナ禍**で全ての仕事がオンラインに
- 東京で働いて感じる違和感「**提案や予測だけでは社会は変わらない**」
- 小布施町が**環境政策や行政DX**などの**専門チーム**を設立



移住を決断

栗と北斎と花のまち

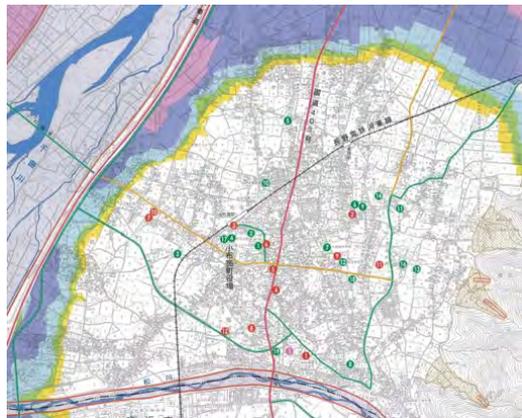


小布施町

小さな規模(計画～実装のしやすさ)、顔が見える関係性(協働の誘発)、柔軟な発想力・適応力(行政・民間とも)を併せ持ったコンパクトシティ



長野県の「北信」地方



半径2キロに収まる面積
(19.12km²、1.1万人)



栗と北斎と花
(と景観)の町

(観光客年間100万人)

参加者としてイベントに参加した結果、プロトタイプ作りで町に通いはじめ、その後、教育プログラムの運営、政策文書の作成と、徐々に関わり方が深く...

2018年2-9月
若者会議

「環境分科会」の参加者として、
栗のバイオ燃料づくりを提案
⇒ プロトタイプの製造



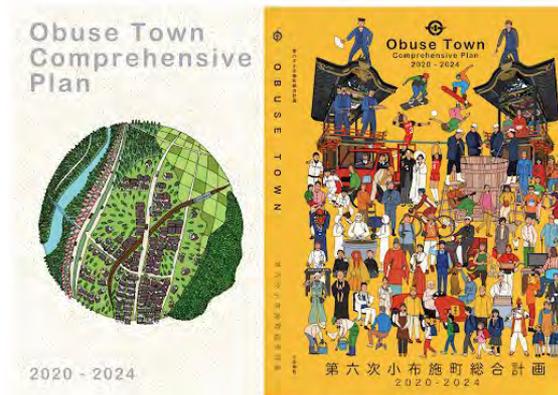
2019年1-3月
OBU-SEEK

社会人向けの学びのプログラム
(経産省「みらいの教室」採択)
の運営



2019年4月-
総合計画

町民と行政が町の未来を考える対
話のファシリテーション



「総合計画」の中でも環境分野を担当。
住民と行政職員の議論をファシリテーションを通して、ビジョンを作成した



第六次総合計画 取りまとめ資料より抜粋

4. 環境・防災・インフラ

重点施策②：「環境先進都市」への転換

基本方針

SDGsなどの国際的な枠組みが社会に浸透する中で、環境問題に対する自治体のスタンスを明確にし、多様なセクターと連携しながら具体的な行動を起こすことで、環境に配慮した循環型社会・低炭素社会の実現に向けて率先して取り組みます。

1) 環境配慮を推進する町の体制強化

町役場が率先して環境政策に取り組むために、役場内部に「環境推進室（仮称）」を設置し、環境推進計画の策定に取り組むとともに、政策の意思決定プロセスにおける環境基準の導入を行い、環境に配慮した民間事業者や家庭での取り組みを応援する姿勢を明確化します。

2) 自然エネルギー利活用の推進

低炭素社会の実現に向けて、自然エネルギーを活用した発電や熱源利用の拡充に周辺自治体と連携して取り組むとともに、自治体や事業者、家庭における自然由来の電力利用の推進に取り組みます。

3) ごみゼロの推進

環境負荷の低減に向けて、町、家庭、事業者から排出されるゴミの現状の把握に取り組むとともに、3Rの推進等により資源循環を強化し、ゴミを出さないクリーンなまちをめざします。

4) 環境に優しい観光・農業の推進

観光客のマイボトル持参やエコカーでの訪問などの推進、利用しやすい公共交通の導入等に取り組み、環境意識の高い観光客の来訪増を目指すとともに、環境負荷が少なく、循環型の農業のあり方を研究し、付加価値の高い農業につなげます。

総合計画の中で、役場横断で環境戦略を作る部署の必要性を提言したところ、わずか3ヶ月後に役場内に「総合政策推進室」が発足 ⇒ 移住することに

政策分野	重点施策
出産・子育て・教育	安心して産み育てられる環境づくり
	子どもを中心とした地域の連携づくり
	誰もが安心して学べる環境づくり
	たくましく、しなやかな心と体を養う環境づくり
健康・医療・福祉	健康づくりと予防の推進
	心の健康づくりの推進
	地域共生社会を支える見守りと体制づくり
学び・交流・文化	暮らしを豊かにする学びと交流の場づくり
	次代を担う若者の育成・応援と新しい文化の創造
	多様性をはぐくむ人権意識の醸成
産業振興・移住定住	強い農業と魅力的な農村地域づくり
	新しい賑わいを町中に
	事業体誘致と既存産業活性化による多様な雇用機会の創出
	関係人口の拡大と移住定住の促進
環境・防災・インフラ	災害に強いまちづくり
	「環境先進都市」への転換
	快適で個性豊かな生活環境の整備
	新しい時代の都市インフラ構造の研究と実践
協働の推進・行財政改革	協働につながる場づくりと活動支援
	長期的な視点に立った行政運営
	役場組織の活性化・職員の意識改革と能力開発

総合計画の中でも「役場横断」が重要な 3領域を管轄



「関係人口」との接点強化
(オンラインコミュニティ化)



次世代型インフラを備えた
「環境防災先進都市」への取り組み



行政のデジタル化・効率化
と住民サービスの向上

行政では全体戦略から実行まで幅広く政策立案を担いつつ、民間の機動力を活かした「弾込め」を行う。その過程で外部人材もフル活用。

行政での政策立案: 社会の理想像を描く (~2023年度: 総合政策推進専門官)

- **環境にやさしい町を作ろう!**
ゼロカーボン・ゼロウェイスト・防災・観光
- **ITの力でもっと便利にしよう!**
行政DX、スマートシティの推進
- **小布施のファンを増やそう!**
「小布施バーチャル町民会議」
- **第七次総合計画の策定**
町民ワークショップの設計、施策構成の提案



民間での「弾込め」: 当事者として理想の実現に向けて動く

- **電動キックボードを走らせてみよう!**
2021年経産省実証事業採択事業
- **「栗フトビール」を作ってみよう!**
観光協会による体験型コンテンツとしてとして
2021年秋キックオフ、2月に完成
- **「テントサウナ」でととのおう!**
地元農家と連携し、畑でサウナ → 温泉でととのう
→ 地場食材フルコースを堪能
- **「北斎館」の新規事業を考えてみよう!**
新たな広場空間、観光客とアートの接点作り
など...

- 適度な自由度や裁量を持った「関わりしろ」
 - まずは、理想を高く掲げ、地域として外部に開く。

【協働人材との接点づくり】小布施若者会議(2012～)



都会からの若者の流れをつくり、町に “カオス” とつながりを生み出す。
多様な人、課題、アイデアを結びつけて、新しいまちづくりの種を。

ミライ構想カレッジ in 小布施

2050年のミライを
私たちの手につくろう。

Local

小布施町

Technology

NTT東日本

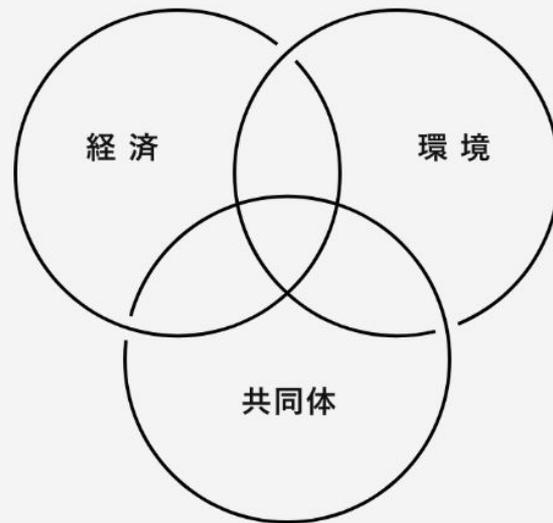
Academia

東京大学

GOALS

目指す社会のあり方

「経済」「環境」「共同体」の3つの要素は、社会を構築する基盤であり、これら3つの持続可能性が、社会のありたい姿を実現する鍵となるのではないかと考える。「ミライ構想カレッジ in 小布施」では、3つの要素を踏まえたミライの社会を構想し、小布施町というフィールドで実践に取り組む。



経済

モノやサービスを生産・消費する事で我々の生活は成り立っている。
価値あるものに適正な対価が支払われることで、我々の暮らしが豊かになり、ミライへの再投資も可能となる。

環境

生物は地球上に存在する上で、相互に影響を与えている。
限りある資源を有効活用し、人間の活動による地球環境への悪影響を最小限に抑えることで、ミライの生物・人間が安心して暮らしていく事が可能となる。

共同体

人と人とのコミュニケーションによって、協働が生まれ、新たなアイデアが創出される。人と人との多様な「つながり」によって、ミライに向けて、地域全体での発展や課題解決に取り組む事が可能となる。

小布施町にとってあったら良いこと

【観光客～関係人口～地域住民】

すべての人が価値を感じられる持続可能な仕組みとは？

農業に関わることを
価値に変える

町の魅力を豊かな
体験に変える

意識したい観点

- 「観光客」に迎合する体験ではなく、町民にとっても価値を感じられる仕組み
- 単発のコト消費ではなく、何度も通いたくなる仕掛け

実現するために必要な仕組み

農家さんが本業に集中するためにも、共創関係を円滑にするための中間支援組織（農のコンシェルジュ）が必要ではないか



関係人口

提供価値

- 他ではできないコアな体験
- リフレッシュ
- 生産過程のみえる食材
- 地域との繋がり
- 子どもへの食育
- 第二の故郷・田舎暮らし



中間支援組織 （農のコンシェルジュ）

【機能】

- 対農家
 - 農家さんのマッチング
 - スケジュール調整
 - 作業内容・体験の企画
 - 収益の配分
- 対関係人口
 - ブランディング・広報
 - 予約の受付、やり取り
 - 町内の案内・移動のサポート
 - 体験・農業のガイダンス



農家

提供価値

- 人手不足=作業をお願い
- 農繁期は農業へ収益源の多角化
- 負担ない継続的な関係
- 農業への自信
- 顔の見えるお客様との取引

- 適度な自由度や裁量を持った「関わりしろ」
 - まずは、理想を高く掲げ、地域として外部に開く。
- 自治体や地域企業の「覚悟」「自分ごと化」
 - 当初の若者会議は、町外参加者の多様なアイデアを受け止めきれなかった。外部人材任せにしない、共創関係が重要

栗皮や農業廃棄物の廃棄物の利活用の検討

バイオ炭



栗皮のお香～霧想～

